

美濃陶磁歴史館だより



連続 コラム 第20回 中上良子 女性デザイナーの先駆け

戦後復興の只中であつた昭和20、30年代、美濃の主産業である陶磁器生産の現場で女性のデザイナーが活躍したことをご存じでしょうか。

岐阜県高山市出身の中上良子（1932-2005）は、学生時代に

学んだ絵の才能を生かし、多治見の太洋陶園で陶磁器の絵付けの仕事に携わるようになります。そこで、窯業指導のために各地を訪れていた陶磁器デザイナーの曰根野作（1907-84）と出会います。中上の才能にいち早く気付いた曰根野は、折に触れて中上の活躍の機会を見出し、人生を通して中上に影響を与えました。

昭和30年、中上は曰根野を介して知山陶苑（下石町）に入社します。業界を驚かせる器を次々と生み出していた知山陶苑の活気ある現場で、中上は銅版転写のデザインを一手に担いました。動植物や女性などをモチーフにした緻密な文様パターンを

中上自ら銅板に彫り込みました。ここでの仕事で、輸出陶磁器デザインコンクールやグッドデザイン賞で評価され、陶磁器デザイナーとしての中上を形作りました。

昭和37年（1962）頃になると、曰根野を介して名古屋の安藤七宝店にもデザイン提供を行うようになります。ここで、銀線を用いず釉薬の配色のみで絵画的にモチーフを表現する無線七宝「エマイユ」に魅せられた中上は、自身でもエマイユの制作を開始します。色が複雑に折り重なった中上独自のエマイユは、昭和55年（1980）、フランスの国際七宝美術ビエンナーレでリモージュ市工芸会賞を受賞するに至ります。開催中の展覧会では、さまざまな作り手と関わりながら、陶磁器デザイナーとして、エマイユ作家として、生涯制作に生きた中上良子の世界を紹介しています。



グッドデザイン賞を受賞したコーヒー碗皿
知山陶苑（銅版デザイン：中上良子）



エマイユ
額
中上良子

企画展 のご案内

中上良子

—陶磁器デザイナー・エマイユ作家として—

戦後の女性デザイナーの先駆け的存在である中上良子、初の回顧展です。陶磁器やエマイユのデザイナーとして、エマイユ作家としての制作の軌跡をたどります。



美濃陶磁歴史館
(☎ 051245)

会期 8月13日(土)～11月13日(日)